６、春の拡大月間総括【案】（久保書記長）

（１）春の拡大月間の総括

　3月下旬から5月末までの春の拡大月間は3.5％・79人を目標に取り組み83件・3.67％の結果となり、支部として2年連続の春の拡大目標超過達成となりました。

新型コロナに加え、ウクライナ情勢や円安による物価高や材料不足も重なり仕事や生活に一層、厳しい波が押し寄せるなかの拡大月間となりました。そのなかで『分会活動』を再活性化させ『仲間との繋がりづくり』に注力し着実な前進を勝ち取り、目標を達成したことは大変、意義のあるものとなりました。

今後は組合の基本に立ち返った群会議の確立、『相談』『つながり』『組織化』を重点に見据えた夏～秋の組織づくりの方向性の指針とします。

●取り組み経過と特徴

**【３月】**新型コロナ陽性者数が高い水準で推移するなか、日本国民の約8割が2回目のワクチン接種をしており、『経済活動の再開』と『感染対策』の両立が加速していきました。分会総会にむけ、あらたな役員登用に苦慮する分会もありましたが、新しい仲間が専門部を受けてくれた（第②③分会）、後継者世代の組織部長選出（第⑦⑩分会）など分会での丁寧な働きかけが実った経験が生まれました。春の『準備期間』として位置づけた、春一番の拡大では分会内事業所（個人・法人事業所）での雇用が進んだこと、制度利用（労災）や税金相談での加入が成果を押し上げ、46件・2.03％（昨年46件・2.05％）を築き、昨年と同水準の成果となりました。

**【４月】**10日の支部大会は規模・内容を縮小し開催、月間スタートの勢いをつける機会として重視した出陣式は『スローガン発表』『成果報告』を中心におこないました。すべての分会から『コロナ禍で難しくなった分会活動を少しでも盛り上げ、拡大達成に結びつけていく！』という機運があり、出陣式を大いに盛り上げました。9つの地域分会と事業所分会から20件(昨年24件)の成果が上がり、スタートダッシュを切ることが出来ました。昨年のコロナ禍でも『できる・やれる』ことを少しずつでも増やし動きを停滞させなかった経験、前向きに取り組んだ分会の役員の姿があったからこそ『拡大をやっていく』かまえが確立出来たと言えます。また、昨年、秋よりおこなっている『東京土建』を周知する拡大宣伝行動では月間スタートと同時に青年世代の参加や女性の会の協力により後方支援ながら大きな行動となりました。（合計12日間・27人参加）

さらに、コロナ禍で苦しむ仲間の声を聞き取るアンケート行動などを展開、『現場でのコロナ対策』『事業復活支援金』『組合に取り組んでもらいたいこと』など仲間の声を集約し『繋がり』を推進しました。悩みを抱える仲間に『支部に相談して』だけでなく、分会・群の役員が耳を傾けることで組合の存在意義を示しました。節目標の40人に少し届かない32人で5月を迎えることになりました。

**【５月】**新規雇い入れや一人親方労災加入などが続く中、拡大執行委員会を中間の結節点と捉え、成果を追求しました。中間決起では第②分会から2人の成果報告があり、すべての分会から成果が上がりました。アンケートでは『加入を勧めている』『検討している仲間がいる』という声もあり、声掛けに活用しました。

各分会では旺盛な分会活動が展開され、ポスティング行動後に30人の仲間が集まり高尾山でBBQ、2月に加入した仲間も夫婦で参加、その後法人設立し従業員を雇用**（第４分会）**。新分会長のもと6月に分会レクを開催し多くの参加者を募りたい**（第5分会）。**

後継者育成のため交流の場を開催し共済学習もおこなう**（第8分会）。**焼肉交流会を37人の仲間で開催し、共済学習会もおこなった**（第9分会）**。分会センターで恒例のBBQを17人の仲間で開催、達成しているが超過を目指す機運を高めた**（第10分会）**。ポスティング行動を実施、初参加の群長を含む12人の仲間が集合**（第③分会）**。拡大自主活動補助金を使ってのイベントを計画、実施。**（第②⑦分会）**

これまでのコロナ禍にない、分会活動を展開していくなかで**第④⑩分会**は早期に目標を達成し、分会の動きを再活性化させたことで拡大行動を前進させました。他方で生活、仕事に困窮する仲間も多く、支部では国の『事業復活支援金』の相談会も定期的におこない、電話での相談も含め50件ほどに対応、迅速な支給に繋げました。

このもとで5月22日（日）に新役員学習会・終盤決起集会を京王プラザホテルにて開催しました。学習会ではコロナ禍のなかで考え、悩みながらも分会活動を継続した役員からの発言に共感を呼びました。当日は23件の成果が持ち寄られ第①②③⑧⑨分会が達成し支部全体の成果も77件と飛躍、ラストスパートにむけ勢いがつくものとなりました。

23日からの連日行動でも事務所の雇い入れで着実に成果を積み上げ、支部目標を超過。昨年春に続き2年連続で目標達成の到達を築くことが出来ました。今年の春は多くの分会でイベントを実施・計画され支部目標達成に大きな原動力なりました。コロナ禍2年間で停滞していた『分会の仲間との繋がりづくり』を再開出来たことは、今月間での何よりの大きな前進点となり『仲間の奮闘と協力あってこその拡大月間』を体現できました。2ヵ月に及ぶ皆さまのご奮闘に心から感謝申し上げます。

●コロナ現場関連アンケートについて（アンケート総数232人）

**☆コロナ関連で現場での困りごと**・・ある18人　ない214 人

【具体的に】

・材料が入ってこない、高い・仕事が減り収入減

・陽性者が出て現場が止まった　・現場でのマスク非着用

**☆現場での感染対策（複数回答あり）**

・消毒149人　・密集回避140人　・就業前の検温130人

・休憩室の換気104人　・ポスターでの注意喚起75人

これら全ての項目の対策をしている　53人

**☆国の事業復活支援金について**

・申請中24人　・組合に相談したい11人　・わからない54人

・無回答103人　・組合に相談し給付3人

**☆組合に取り組んでほしいこと（複数回答あり）**

・資格講習83人（フルハーネス、高所作業車、職長教育、

玉掛け、建築関係、電気関係、丸ノコ、足場、八王子での講習

開催）

・イベントや交流会52人（住宅デー、バーベキュー）

・経営セミナー28人

・その他10人（アスベスト調査関連、支援金、融資の情報、契約時の対応）

●新加入者の特徴―コロナ禍でも事業所加入が好調

　月間加入者の特徴は、10～30代が全体の53％（2021年は53％）、一因として厚生年金手続きを伴った加入が60％（2021年48％）で多かったこと(若年者の雇用増)、次いで土建国保の加入15％となりました。成果の内訳として最も多かったのは年明けからの『新規雇い入れ』や独立が多く、それにともなう土建国保加入が目立ちました。他方、日常の制度・相談（税金）での加入もあり、労災加入は例年と比較し減少傾向となりました。雇用が多い反面、従業員の定着が低く今年の脱退事由の一番として、事業所退職による脱退が挙げられます。

●到達と課題

分会の拡大行動は10分会中9分会・累計60回(昨年34回)となり、累計参加337人（昨年180人）、累計訪問165件（電話かけなど含む・昨年139件）。ここ、2年のコロナ禍では一番多く、分会活動の再活性化＝行動参加者増となる結果となりました。一方、行動が進まない分会でも拡大についての声掛けや取り組みを全くおこなっていないわけでなく、分会の機関会議で位置づけ、行動をしていると報告がありました。数年来の課題である、『新たな仲間』の行動参加という点では、第③分会でポスティング行動に初参加という経験が生まれましたが全体を通し、劇的な変化に乏しく地道な声掛けが今後も必要となります。

他方、支部レベルでは昨年同様、コロナ禍でありながら出陣式や中盤・終盤決起集会を沢山の仲間とともにとはいきませんでしたが開催できました。コロナ禍で仲間の繋がりに危機感をもった分会役員の奮闘も目立ち、『顔を合わせる場』＝『分会イベントや拡大行動日』を多く作れたことが拡大成功の鍵となりました

2022年初めのウクライナ情勢による建築資材の高騰が続き、2021年3月と比べ9割の工務店が工事費の上昇を訴えているなか、価格に転嫁することが難しい仲間も多く存在します。仲間の生活や仕事の不安に耳を傾け、困っている仲間に対し直ちに相談体制に繋げていくことこそ組合活動の根幹となります。基本に立ち返った群会議の開催を目指し、夏～秋にかけて『仲間とつながる運動』へ引き続きの奮闘をお願いします。